

OLYMPUS

2024年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 社長兼CEO シュテファン・カウフマン 執行役 CFO 武田 睦史 | 2023年11月9日

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

第2四半期及び累計実績

✓ 地域別では全分野で成長したアジア・オセアニア、セグメント別では医療サービスが好調に推移し、増収。成長投資や事業運営基盤強化、効率性向上のためのプロジェクト費用に加え、Veran Medical Technologies社関連の損失計上などにより減益

- 売上高： 連結で+5%成長。医療分野は2Q及び累計において過去最高の売上高
- 調整後営業利益： 効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用の増加に加え、将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加などにより、減益
- 当期利益*： 科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し、過去最高の2,163億円、EPSは174円
- その他： FDAと建設的な対話を行いつつ、警告書によって指摘された課題への対処は順調に進捗

通期業績見通し

✓ 社内外のさまざまな要因により減益の見通しだが、特定した成長阻害要因への対策を着実に講じるとともに、持続的な成長に向けた投資を継続する

- 売上高： 前期比9%増の9,580億円を見込む
- 調整後営業利益： 前期比1%減の1,745億円、調整後営業利益率は18.2%を見込む
- 当期利益*： エビデントの譲渡益を計上し過去最高の2,890億円、EPSは238円となる見通し
- 株主還元： 800億円の自己株式の追加取得を決定（2024年3月期通期では、総額1,800億円）

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

01

2024年3月期 第2四半期
連結業績および事業概況

2024年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高：連結で+5%成長。医療分野は2Q及び累計において過去最高の売上高
- 2 調整後営業利益：効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用の増加に加え、将来の成長や事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加などにより、減益
- 3 当期利益*：科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の2,163億円、EPSは174円

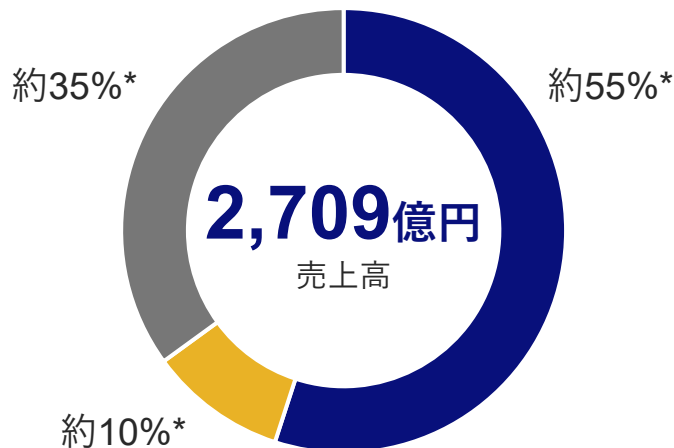
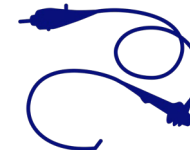
第2四半期累計実績（4-9月）

第2四半期実績（7-9月）

	第2四半期累計実績（4-9月）				第2四半期実績（7-9月）					
	(単位：億円)	FY2023	FY2024	前期比	為替影響調整後	FY2023	FY2024	前期比	為替影響調整後	
継続事業**	売上高	4,171	4,366	1	+5%	0%	2,248	2,289	+2%	▲2%
	売上総利益 (売上総利益率)	2,775 (66.5%)	2,884 (66.1%)		+4%	▲2%	1,518 (67.5%)	1,512 (66.1%)	0%	▲5%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	1,985 (47.6%)	2,216 (50.8%)		+12%	+7%	1,025 (45.6%)	1,129 (49.3%)	+10%	+5%
	その他の収益および費用など	146	▲620		-	-	▲2	▲560	-	-
	営業利益 (営業利益率)	936 (22.4%)	48 (1.1%)		▲95%	▲99%	491 (21.8%)	▲177	-	-
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	794 (19.0%)	666 (15.2%)	2	▲16%	▲24%	496 (22.1%)	383 (16.7%)	▲23%	▲26%
	税引前利益 (税引前利益率)	893 (21.4%)	▲10	▲903億円			473 (21.0%)	▲207	▲679億円	
	継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	695 (16.7%)	▲115	▲810億円			416 (18.5%)	▲250	▲666億円	
	非継続事業からの当期利益	▲26	2,281	+2,307億円			4	10	+6億円	
	当期利益	669	2,167	+224%			420	▲240	▲660億円	
親会社の所有者に帰属する当期利益	668	2,163	3	+224%		420	▲243	▲662億円		
EPS	53円	174円				-	-			

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

2024年3月期 第2四半期実績 ②内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2023		FY2024	
	2Q	2Q累計	2Q	2Q累計
売上高	1,416	2,585	1,437	2,709
営業利益	441	689	287	509
その他の損益**	▲2	▲14	▲44	▲78
調整後営業利益	443	703	332	587
営業利益率 (為替影響調整後)	31.1%	26.7%	20.0% (19.8%)	18.8% (17.7%)
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	31.3%	27.2%	23.1% (22.9%)	21.7% (20.6%)

FY2024 vs FY2023 (7-9月) 売上高成長率

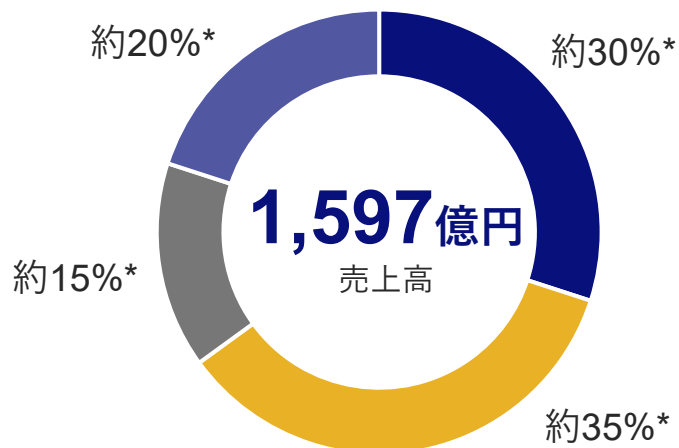
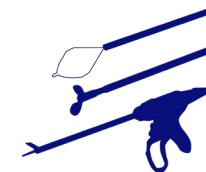
為替影響 調整後

円ベース 為替込み

■ 消化器内視鏡	▲8%	<ul style="list-style-type: none"> 投資抑制などが見られた欧州と、「EVIS X1」発売前の買い控えが継続している北米において特にマイナス成長 	▲5%
■ 外科内視鏡	▲5%	<ul style="list-style-type: none"> 特に事業環境が厳しい中国において減収。新製品の外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」を発売した日本、欧州、アジア・オセアニアは好調に推移 	▲2%
■ 医療サービス	8%	<ul style="list-style-type: none"> 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、中国をはじめ全地域でプラス成長 	14%
合計	▲3%		1%

*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります / **決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

2024年3月期 第2四半期実績 ③治療機器事業



(単位: 億円)	FY2023		FY2024	
	2Q	2Q累計	2Q	2Q累計
売上高	806	1,529	825	1,597
営業損益	164	298	▲382	▲285
その他の損益**	1	▲1	▲528	▲547
調整後営業利益	163	299	145	261
営業利益率 (為替影響調整後)	20.4%	19.5%	-	-
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	20.2%	19.6%	17.6% (18.2%)	16.4% (16.1%)

FY2024 vs FY2023 (7-9月)
売上高成長率

為替影響
調整後

円ベース
為替込み

■ 消化器科 (処置具)	6%	■ 北米を中心にプラス成長。ERCP、ESD・EMR、止血用の製品群の売上が拡大	11%
■ 泌尿器科	▲4%	■ 北米や日本において、主要製品を含み一時的な出荷停止や供給不足が発生した影響などにより減収。BPHで主に使用される切除用電極は引き続き販売が拡大	1%
■ 呼吸器科	▲2%	■ 一部製品の供給不足などが発生した中国と、前年COVID関連の補助金効果が見られた日本で減収	2%
■ その他の治療領域	▲9%	■ 欧州でのGyrus Medical社の売却などに伴い減収	▲5%
合計	▲2%		2%

*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります / **決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

財政状態計算書

- ☑ 主にエビデント譲渡による現金・利益の増加により、バランスシートは為替影響（約890億円）を除いて実質約205億円増加
- ☑ エビデントの株式譲渡完了に伴い、売却目的で保有する資産および、それに直接関連する負債の額が変動
- ☑ Veran Medical Technologies社の減損を主因にのれん・無形資産が減少

(単位：億円)	2023年3月末	2023年9月末	増減額		2023年3月末	2023年9月末	増減額
流動資産	7,264	9,218	+1,954	流動負債	4,619	4,233	▲386
棚卸資産	1,630	1,834	+204	社債および借入金	500	1,000	+500
売却目的で保有する 資産	1,696	-	▲1,696	売却目的で保有する 資産に直接関連する 負債	433	-	▲433
非流動資産	7,820	6,960	▲860	非流動負債	4,052	3,670	▲382
有形固定資産	2,387	2,531	+143	社債および借入金	2,901	2,485	▲416
無形資産	1,152	996	▲155	資本	6,412	8,275	+1,863
のれん	1,825	1,823	▲2	自己資本比率	42.4%	51.2%	+8.8pt
資産 合計	15,083	16,178	+1,095	負債および資本合計	15,083	16,178	+1,095

連結キャッシュフロー計算書

☑ FCF： エビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に営業CFが減少したものの、エビデントの株式譲渡対価の受領などにより、FCFは大幅増。特殊要因を考慮した調整後FCFは177億円のプラス

☑ 財務CF： 自己株式の取得や配当金支払を主要因に、1,254億円のマイナス
第2四半期実績（4-9月）

(単位：億円)		FY2023	FY2024	増減
継続事業	税引前利益	893	▲10	▲903
	営業キャッシュフロー	273	▲118	▲391
	投資キャッシュフロー	▲157	4,127	+4,284
	フリーキャッシュフロー	116	4,009	+3,893
	調整後フリーキャッシュフロー	162	177	+15
	財務キャッシュフロー	▲355	▲1,254	▲900
	現金および現金同等物期末残高	2,974	4,882	+1,908

2023年3月期第2四半期（4-9月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出	▲152億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入	+191億円
投資CF：投資有価証券の取得	▲35億円
投資CF：科学事業の分社化に伴う投資・一時的な資金負担	▲49億円

2024年3月期第2四半期（4-9月）の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払	▲567億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,879億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円



02

2024年3月期 通期業績見通し

通期業績見通し ①連結業績

- 1 売上高： 前期比9%増の9,580億円を見込む
- 2 調整後営業利益： 前期比1%減の1,745億円、調整後営業利益率は18.2%を見込む
- 3 当期利益*： エビデントの譲渡益を計上し過去最高の2,890億円、EPSは238円となる見通し
- 4 株主還元： 800億円の自己株式の追加取得を決定（2024年3月期通期では、総額1,800億円）

		(単位：億円)		2024年3月期 8月9日公表見通し	2024年3月期 最新見通し	増減	前回 見通し比	為替影響 調整後	2023年3月期 通期実績	前期比	為替影響 調整後
** 継続事業	売上高	9,140	1 9,580	+440	+5%	▲2%	8,819	+9%	+3%		
	売上総利益 (売上総利益率)	6,270 (68.6%)	6,500 (67.8%)	+230	+4%	▲3%	5,968 (67.7%)	+9%	+2%		
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,460 (48.8%)	4,760 (49.7%)	+300	+7%	+1%	4,205 (47.7%)	+13%	+8%		
	その他の収益および費用など	▲180	▲740	-	-	-	103	-	-		
	営業利益 (営業利益率)	1,630 (17.8%)	1,000 (10.4%)	▲630	▲39%	▲46%	1,866 (21.2%)	▲46%	▲54%		
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,820 (19.9%)	1,745 (18.2%)	▲75	▲4%	▲14%	1,768 (20.0%)	▲1%	▲12%		
	税引前利益 (税引前利益率)	1,590 (17.4%)	920 (9.6%)				1,823 (20.7%)				
継続事業からの当期利益	1,150 (12.6%)	610 (6.4%)				1,380 (15.7%)					
*** 非継続事業	非継続事業からの当期利益	2,210	2,280				56				
継続事業	当期利益	3,360	2,890				1,436				
	親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	3,360 (36.8%)	3 2,890 (30.2%)				1,434 (16.3%)				
	EPS	273円	238円				113円				

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

**「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

***2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

2024年3月期配当

4 年間配当18円を予定

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1** 内視鏡事業： 米国と中国で「EVIS X1」を販売開始。中国での反腐敗運動による入札活動の遅れや、自主回収費用の引当計上などを考慮し、下方修正
- 2** 治療機器事業： 供給遅延などに伴う売上減少に加え、Veran Medical Technologies社関連の損失の計上などを考慮し、下方修正
- 3** 非継続事業： エビデントの譲渡益を計上し、前期から大幅増益を見込む

(単位：億円)		2024年3月期 8月9日公表見通し	2024年3月期 最新見通し	増減	前回 見通し比	為替影響 調整後	2023年3月期 通期実績	前期比	為替影響 調整後
内視鏡	売上高	5,720	6,040	+320	+6%	▲1%	5,518	+9%	+3%
	営業利益	1,580	1 1,500	▲80	▲5%	▲15%	1,528	▲2%	▲12%
治療機器	売上高	3,290	3,420	+130	+4%	▲3%	3,182	+7%	+1%
	営業損益	560	2 ▲45	▲605	▲605億円	▲587億円	637	▲682億円	▲689億円
その他	売上高	130	120	▲10	▲8%	▲12%	119	+1%	▲4%
	営業損益	10	10	0	-	-	▲9	+19億円	+19億円
全社・消去	営業損益	▲520	▲465	+55	+55億円	+72億円	▲289	▲176億円	▲161億円
連結合計	売上高	9,140	9,580	+440	+5%	▲2%	8,819	+9%	+3%
	営業利益	1,630	1,000	▲630	▲39%	▲46%	1,866	▲46%	▲54%
(参考) 非継続事業	売上高	0	0	-	-	-	1,354	-	-
	営業利益	3,470	3 3,480	+10	-	-	70	-	-

*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

2024年3月期業績見通し 連結調整後営業利益増減要因（前回見通し比）

2024年3月期通期 8月9日公表見通し比



売上高の主な変動要因

サプライチェーン・QA課題に伴う供給不足	▲約90~100億円
外部要因（中国での反腐敗運動による入札活動の遅れ など）	▲約80~90億円

（単位：億円）*「持分法による投資損益」が含まれています

03

世界をリードするメドテックカンパニー
に向けて

Key Message

- 1** FDAから受領した3通の警告書に関する全ての課題を改善し、患者さんの安全と品質に最も重点を置き、業界最高水準のグローバル・メドテックカンパニーに変革していくことを最優先課題として認識。FDA指摘事項への対応と将来に向けた変革はどちらも順調に進捗
- 2** 中長期的に目指す成長と利益率は、2024年3月期の水準を大きく上回る見通し
- 3** 株主価値を持続的に向上し、資本効率を改善していく



基本的な指針

持続的な成長に向けた経営戦略

基本的な指針

患者さんの安全と
持続可能性



- 1 米食品医薬品局（FDA）に対するコミットメントを遂行し、各国規制当局との信頼関係を構築
- 2 健やかな組織文化とESGを推進

成長のための
イノベーション



- 3 オリンパスブランドの強化、顧客体験価値向上
- 4 戦略的なイノベーション・買収を通じた事業の成長

生産性の向上



- 5 患者さんの安全と製品の品質を重視したパフォーマンスの高い組織を構築
- 6 効率的で無駄のない経営

戦略的な価値の源泉



事業拡大と
グローバル展開



戦略的M&A



ケア・パスウェイの強化



インテリジェント
内視鏡医療エコシステム

“

世界の人々の健康と安心、
心の豊かさの実現

”



総合的な変革プログラムを開始

“

変革に必要なケイパビリティの強化、医療水準の向上およびアウトカムの改善、そして組織全体での成長を目指す

”

過去を見直し、現状を改善

+

将来成長に向けた基盤構築

警告書によって指摘されたすべての課題に対して、効果的かつ迅速に対応を進め、再発防止に努める

部門横断的な取り組みとオーナーシップにより、今後の品質向上に繋がる根本原因の改善に積極的に取り組む



- 製品のライフサイクルマネジメントの改善
- 業務プロセスのデジタル化によるコスト削減と効率性の向上
- 製品の開発、認可取得、発売までのリードタイムを短縮

OLYMPUS
Elevate

持続的な成長に向けた基盤構築

さまざまな要因により、今期は厳しい成長見通しであるものの、持続的な成長と価値創造を中期的に実現するため、戦略的優先事項に投資を
実行

持続的な成長に向けた取り組み

基本的な指針

患者さんの安全と持続可能性



- ✓ FDAからの指摘事項に対する是正活動は順調に進捗
- ✓ 総合的な変革プログラム「ELEVATE」を開始

成長のためのイノベーション



- ✓ EVIS X1の認可取得と販売地域拡大
- ✓ 前立腺肥大症低侵襲治療デバイスiTindの市場拡大に向けた取り組みを推進

生産性の向上



- ✓ 効率性向上のための枠組みの確立

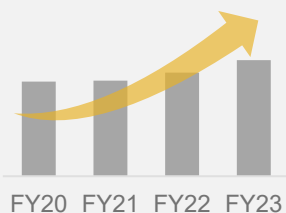


EVIS X1の認可取得と販売地域拡大

当社最大の収益の柱である戦略的基幹製品EVIS X1を全世界で展開し、持続的な成長を促進

EVIS X1によって期待される成長可能性

日本、欧州、アジア・オセアニアにおける消化器内視鏡および気管支鏡の売上高推移



発売後3年間の
年平均成長率

約 **7%**

従来モデルからの潜在的な
買い替え需要



売上割合

約 **50%**

NEW 北米
2023年10月 (FY2024 3Q) より販売開始

NEW 中国
2023年11月 (FY2024 3Q) より販売開始

約 **50%**

日本
FY2021より販売開始

欧州**
FY2021より販売開始

アジア・オセアニア***
FY2021より販売開始



“日本、欧州、アジア・オセアニアも買い替え需要は継続しており、持続的な成長を期待”

欧州は一部CIS諸国を除く *アジアオセアニアは一部地域を除く



内視鏡医療の質向上に貢献するEVIS X1



TXI – 構造色彩強調機能

内視鏡診断時の、粘膜表面の「構造」「色調」「明るさ」の3つの要素を最適化することで、病変部などの観察性能向上に貢献



RDI – 赤色光観察

出血部分の観察と止血処置を容易にし、治療時間の短縮と患者さんへの負荷の軽減や、内視鏡治療後の遅発性出血の回避に貢献



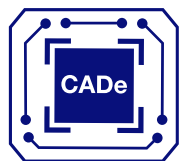
NBI – 狭帯域光観察

より鮮明でクリアな明るい画像が得られ、血管や粘膜表面の視認性向上に貢献



EDOF – 被写界深度拡大技術

高い観察倍率を持ちながら、広い範囲でピントが合うことに加え、解像度の高い画像を得られる



ENDO-AID – 大腸病変の検出支援アプリケーション

高度なAI技術で病変候補を自動的に検出し、腺腫検出率（ADR）の向上に貢献





治療機器事業の強固なパイプラインを通して、差別化されたソリューションを提供

経営戦略の施策に沿って着実に進捗しており、引き続き持続的な成長を目指す

消化器処置具



- 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）/内視鏡的粘膜切除術（EMR）、ENDOCUFF VISION*1、EndoClot*1等の製品群において二桁成長を達成
- **買収***2により幅広いラインアップを獲得し、メタリックステントのポートフォリオを強化。胆道や食道、大腸、十二指腸治療における選択肢を拡大し、**当社のグローバルポジションを急速に強化していく**

呼吸器科



- EVIS X1気管支鏡と内視鏡用超音波観測装置EU-ME3を**今後の成長ドライバー**として期待
- 気管支鏡検査および肺がんの診断とステージ分類において、**患者さんのアウトカムを最適化する有意義な技術革新を提供**することに尽力

泌尿器科



- シングルユース尿管鏡により、医師の選択肢を拡大
- レーザー/超音波結石破碎装置で**シェア拡大**
- 成長ドライバーの一つであるPLASMA+ Technologyシステムは**堅調な成長を継続**
- **差別化された前立腺肥大症低侵襲治療デバイス**によって優れた臨床成果を提供し保険適用を拡大し、医療水準の向上に貢献*3

*1 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております *2 Taewoong Medical社の買収のクロージンは未定

*3 iTindによる治療は、永久的インプラントが不要で、性機能や排尿機能が維持でき、術後のカテーテル留置の必要性も低減。外来治療にも対応



前立腺肥大症低侵襲治療デバイスiTind*1の市場拡大に向けた取り組みを推進

米国医師会CPT委員会は、iTind*1に対してCPTコード設定を発表
2025年1月からの適用を想定

BPH(前立腺肥大症)のケア・パスウェイ



iTind



臨床的利点

- 前立腺肥大症の症状の早期改善に貢献
- 前立腺組織の切開や加熱が不要
- 永久的な器具の留置が不要
- 他の治療に伴う合併症を避けることに貢献

患者さんのメリット

- 性機能や排尿機能を維持したまま、不快なカテーテル留置の必要性を低減
- 入院の必要がなく簡単な処置で挿入できるため自宅で療養可能

医療提供者のメリット

- 2023年、米国CMS*2はHOPD*3またはASC*4でiTind*1を使用した場合の保険適用を増額
- 代替治療と比較して、症例にかかる時間および費用の削減に貢献

“ より多くの患者さんと医師がiTind*1を利用できるようになり、ケア・パスウェイの強化および医療水準の向上に寄与 ”

*1 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
*2 CMS = Centers for Medicare & Medicaid Services

*3 HOPD = Hospital Outpatient Department
*4 ASC = Ambulatory Surgery Center



効率性向上のための枠組みの確立

グローバル・オペレーティングモデル

目標

グローバル・オペレーティングモデルを最適化することで、イノベーションを推進するための資本を確保し、世界をリードするメドテックカンパニーとしてよりハイパフォーマンスな組織となる



グローバル・オペレーティングモデルの基本方針



将来的な事業部の体制とグローバルでのビジネスユニットの構想



事業、機能、地域ごとの役割と責任の明確化



機能別オペレーティングモデルの改善



経営管理プロセスのさらなる高度化



地域間で調和されたガバナンスの枠組みと組織体制

グローバルにおける生産性の向上

目標

オペレーティングモデルの最適化に向けた短期的・長期的な取り組みを明確にし、**効率的で無駄のない経営を実現**



2025年3月期の販管費目標の達成に向けた生産性の向上プラン



業界をリードするベンチマークの基準を踏まえた現行オペレーションの評価



中長期的な規模の適正化の検討



キャピタルアロケーション

キャピタルアロケーション

- ✓ 成長ドライバーへの優先的な投資
- ✓ 安定的かつ段階的な増配
- ✓ 機動的な自己株式の取得



株主還元：800億円の自己株式の追加取得を決定

“ 2025年3月期、2026年3月期もキャピタルアロケーションの方針に基づき、
運転資金および投資のための十分な手元流動性を確保した上で、
自己株式の取得を積極的に検討 ”

1,000 億円

- ✓ 取得しうる株式の総数
55,000,000 株（上限）
：発行済株式総数（自己株式を除く）
に対する割合 4.39%*
- ✓ 取得期間
2023年5月15日～2023年11月6日

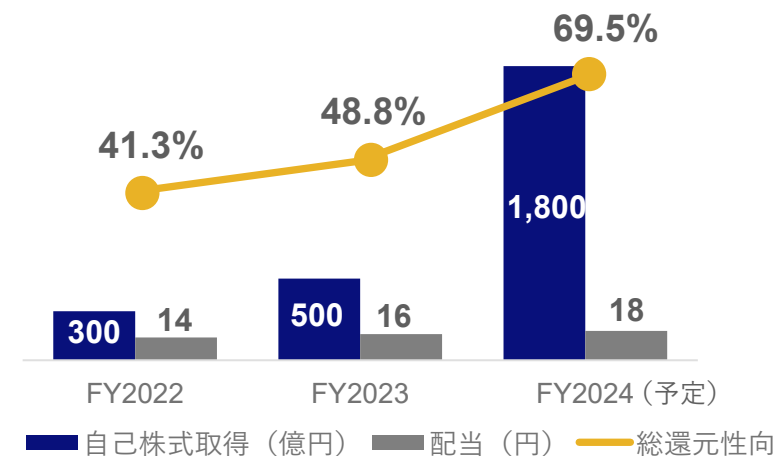
NEW

800 億円

- ✓ 取得しうる株式の総数
53,000,000 株（上限）
：発行済株式総数（自己株式を除く）
に対する割合 4.34%**
- ✓ 取得期間
2023年11月10日～2024年3月31日

1,800 億円

株主還元の推移






* 2023年3月31日時点の発行済み株式数（自社株除く）を基に算出

** 2023年9月31日時点の発行済み株式数（自社株除く）を基に算出



2026年3月期には、1桁台半ばの売上高成長率と
20%の調整後営業利益率の達成を目指します



 売上高成長率*	約 5% CAGR from FY2023
 EPS成長率**	約 8% CAGR from FY2023
 営業利益率**	約 20%

* 為替前提を固定

** 特殊要因調整後

- その他の収益および費用等を除く

- 為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

参考資料

OLYMPUS

A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

開示の変更点

2024年3月期第1四半期に科学事業（エビデント）の譲渡を完了したことに伴い、
2023年3月期第2四半期より2024年3月期までは科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

2022年3月期



2022年4月～2024年3月

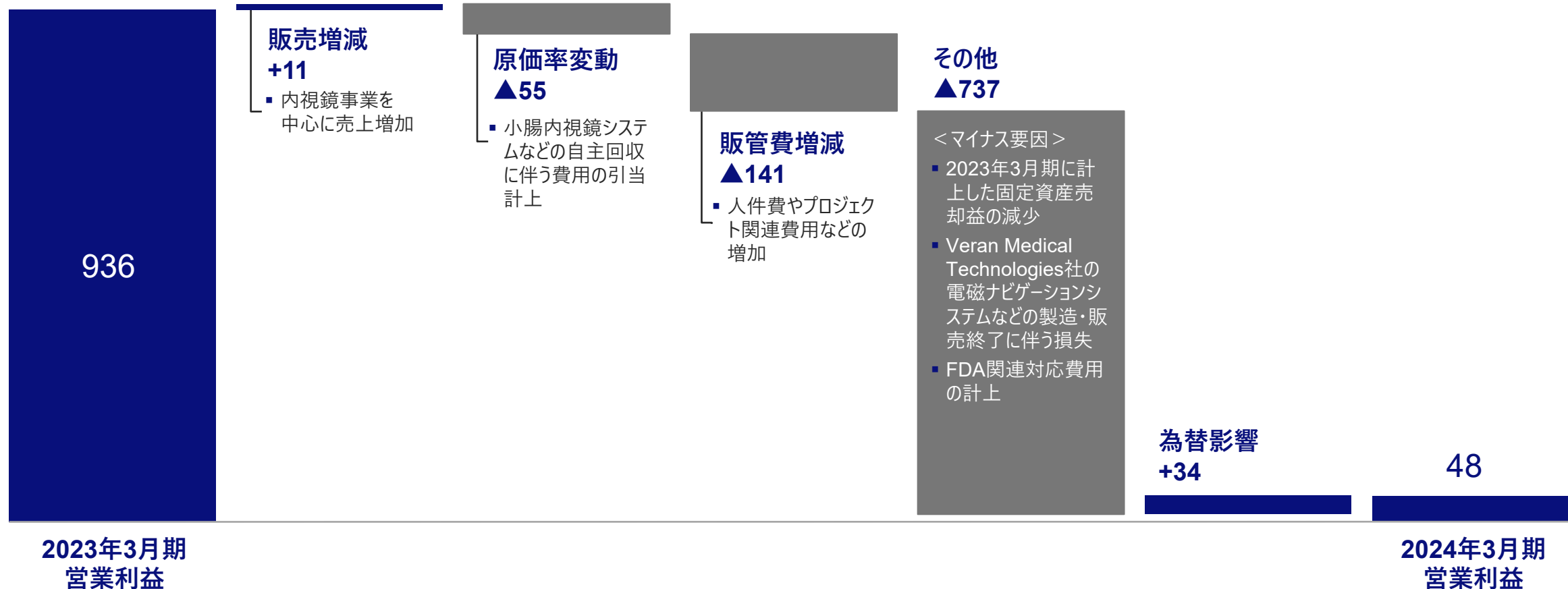


- ✓ 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- ✓ 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、2023年4月に全株式の譲渡を完了しています

2024年3月期 第2四半期実績 連結営業利益増減要因

第2四半期実績（4-9月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2024年3月期 第2四半期実績 セグメント別概況

第2四半期累計実績（4-9月）

(単位：億円)		第2四半期累計実績（4-9月）			
		2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	2,585	2,709	+5%	+1%
	営業利益	689	509	▲26%	▲33%
治療機器	売上高	1,529	1,597	+4%	0%
	営業損益	298	▲285	▲583億円	▲572億円
その他	売上高	57	61	+8%	+3%
	営業損益	▲8	10	+18億円	+18億円
全社・消去	営業損益	▲43	▲186	▲143億円	▲140億円
連結合計	売上高	4,171	4,366	+5%	0%
	営業利益	936	48	▲95%	▲99%
(参考) 非継続事業	売上高	527	0	-	-
	営業損益	▲49	3,482	-	-

第2四半期実績（7-9月）

		第2四半期実績（7-9月）			
		2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	為替影響調整後
		1,416	1,437	+1%	▲3%
		441	287	▲35%	▲38%
		806	825	+2%	▲2%
		164	▲382	▲547億円	▲523億円
		26	27	+2%	▲4%
		▲5	11	+16億円	+16億円
		▲109	▲93	+16億円	+18億円
		2,248	2,289	+2%	▲2%
		491	▲177	▲668億円	▲656億円
		309	0	-	-
		▲11	6	-	-

その他損益

前年同期比

(単位：億円)

FY2023 2Q累計

FY2024 2Q累計

増減

その他の収益 194 25 ▲168

主な収益科目 土地売却益 164 コラーゲン事業譲渡益 11

その他の費用 51 643 +592

主な費用科目 Transform Olympus等費用 17 Veran Medical Technologies社関連損失 496 FDA関連対応費用 119 開発資産減損 10

通期見通し比

(単位：億円)

FY2023

FY2024

増減

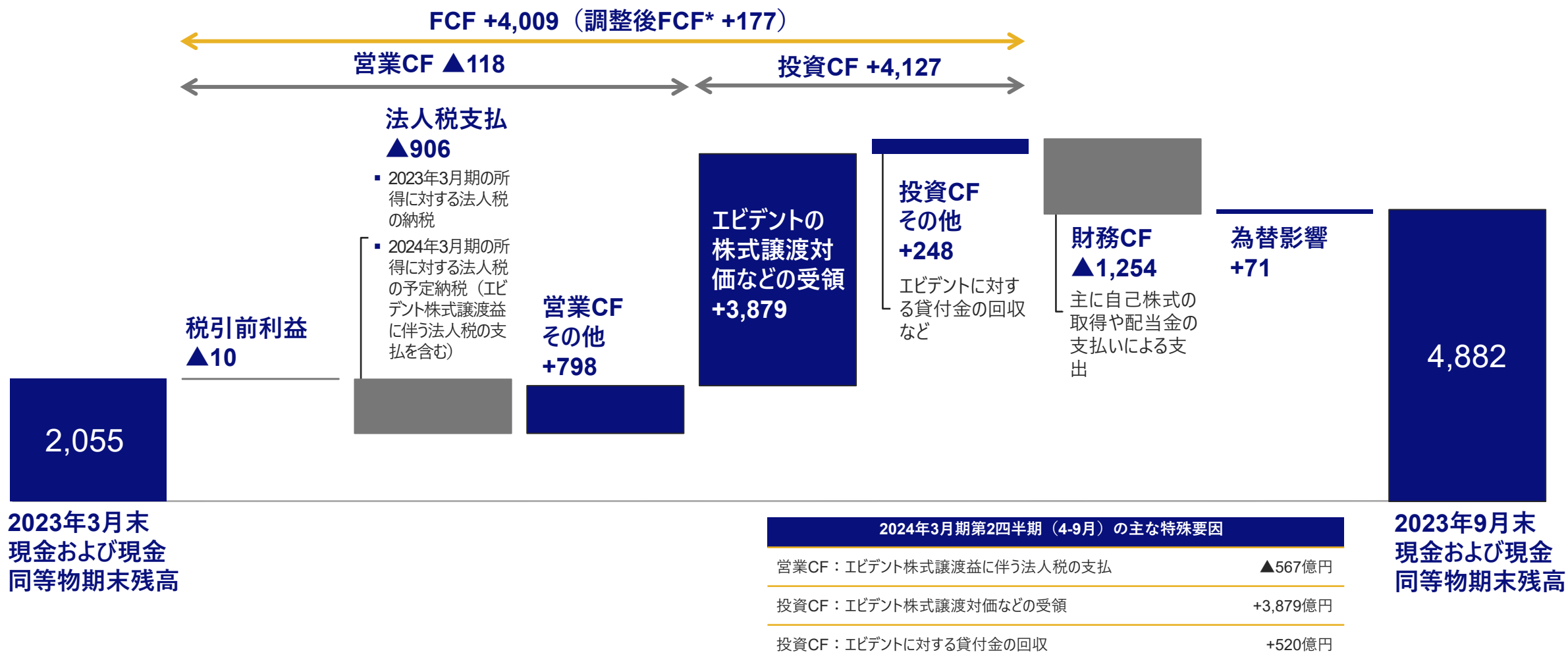
その他の収益 237 35 ▲202

主な収益科目 土地売却益 164 Medi-Tate条件付対価戻入 13 コラーゲン事業譲渡益 11

その他の費用 139 780 +641

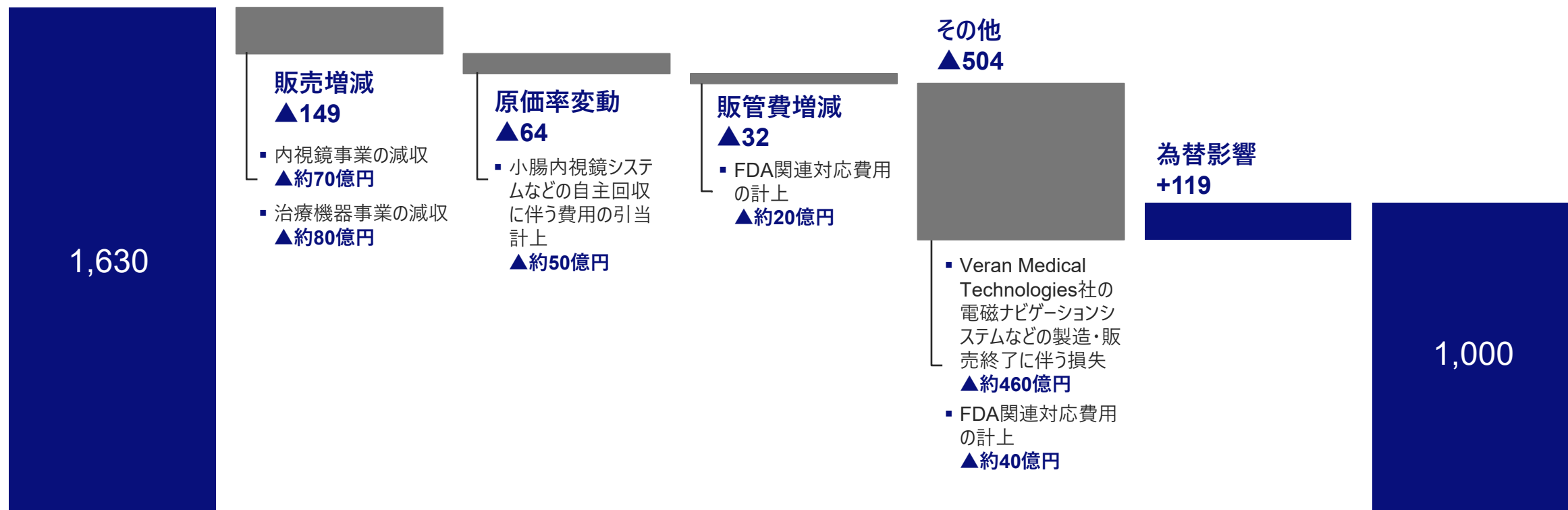
主な費用科目 Transform Olympus等費用 24 Veran Medical Technologies社関連損失 510 開発資産減損 18 FDA関連対応費用 19 開発資産減損 10

連結キャッシュフロー 増減要因



2024年3月期業績見通し 連結営業利益増減要因（前回見通し比）

2024年3月期通期 8月9日公表見通し比



2024年3月期
営業利益
前回見通し

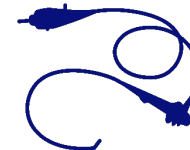
売上高の主な変動要因

サプライチェーン・QA課題に伴う供給不足	▲約90～100億円
外部要因（中国での反腐敗運動による入札活動の遅れ など）	▲約80～90億円

2024年3月期
営業利益
今回見通し

（単位：億円）*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2023年11月9日時点)



2024年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2024年3月期中頃に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入により、収益性を改善

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、欧州、日本、中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国、中国)
- EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器内視鏡

- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

外科内視鏡

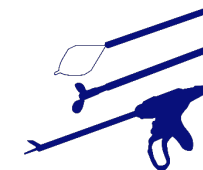
- VISERA ELITE III (米国)

3%

2024年3月期 売上高成長率¹

¹ 為替影響調整後の成長率

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2023年11月9日時点)



2024年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイス など主要カテゴリーにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- レゼクト電極
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州、アジア・オセアニア)

呼吸器科

- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム
- EVIS X1 気管支鏡 (日本、欧州、アジア・オセアニア)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 1製品 (米国)
- 6製品 (欧州)
- 5製品 (日本)
- 1製品 (中国)

泌尿器科

- ESG-410 (米国、日本、アジア・オセアニア)
- シングルユース尿管鏡 (米国、アジア・オセアニア、日本)
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System (日本)
- iTind (米国、欧州、アジア・オセアニア)
- レゼクト電極 (中国)
- 硬性尿管鏡 (中国)

呼吸器科

- 新超音波気管支鏡 (米国、中国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- 超音波プロセッサー (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- 膀胱鏡
- カメラヘッド
- ビデオプロセッサー

呼吸器科

- 細径超音波気管支鏡
- EVIS X1 気管支鏡 (中国)

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

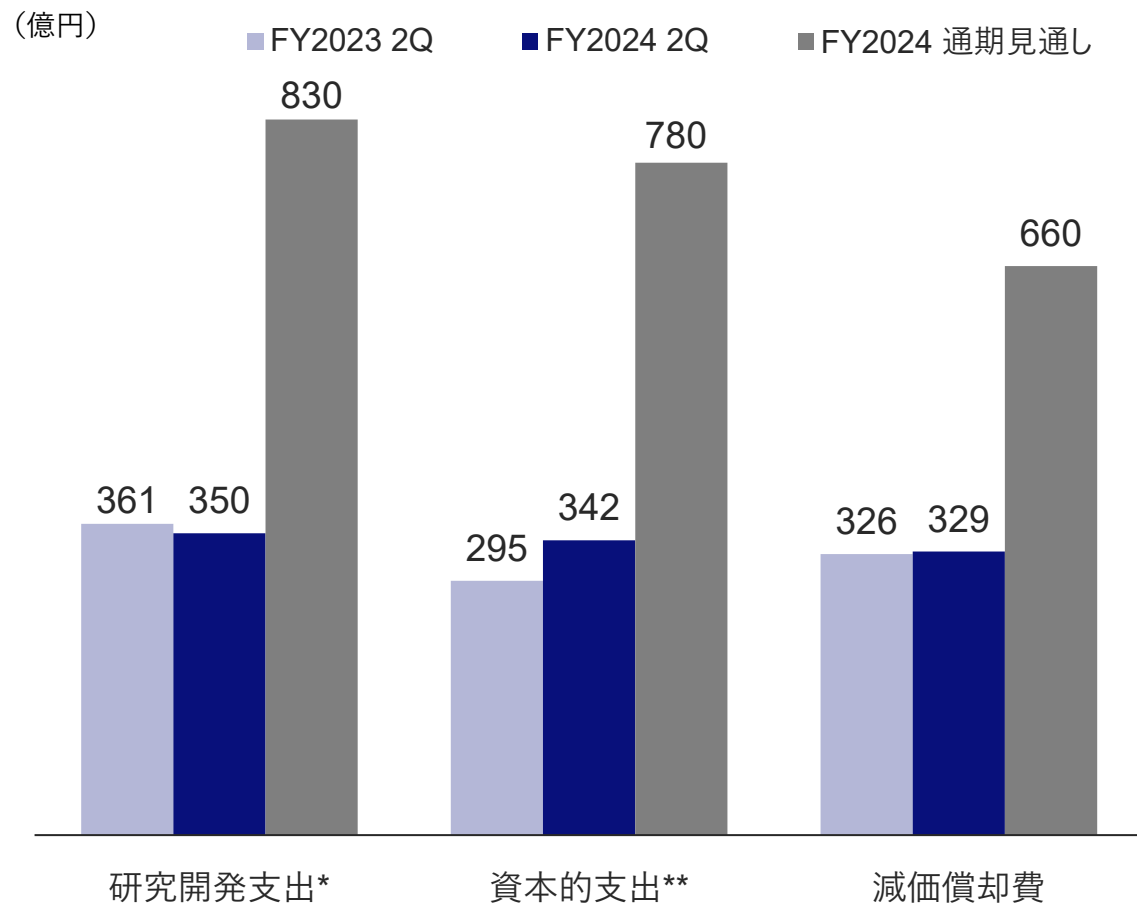
1 為替影響調整後の成長率

1%

2024年3月期 売上高成長率¹

投資など

第2四半期実績（4-9月）および通期見通し



(単位：億円)	FY2023	FY2024
研究開発支出* (a)	361	350
開発費資産化 (b)	56	62
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	305	288

(単位：億円)	FY2023	FY2024
償却費	39	42
	2023年6月末	2023年9月末
開発資産残高	599	608

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

**資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用权資産が含まれています。(FY2023 2Q：43億円、FY2024 2Q：69億円、FY2024 見通し：90億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1ヵ月間の平均値を原則としている

為替

(単位：円)	FY2023 1Q	FY2023 2Q	FY2024 1Q	FY2024 2Q	前回見通し	FY2024 最新見通し
円／ドル	129.57	138.37	137.37	144.62	132	145
円／ユーロ	138.12	139.34	149.47	157.30	144	155
円／人民元	19.58	20.19	19.56	19.94	19	20

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	25	7
ユーロ（1円あたり）	16	6
人民元（1円あたり）	58	35

*為替感応度（年間）はFY2023Q4実績より算出しています。